

1 はじめに

1-1. 研究の背景

広見線は、利用者の減少や地域の高齢化によって将来的な廃線の可能性が示唆されている。一方で、地域の人々がこの路線についてよく知らなかったり、関心が薄れていたりする現状がある。体験型のイベントを通して関心と記憶を呼び起こすことが重要だと考えた。

広見線と地域が抱える課題

- ・名鉄広見線の利用者減少が続いている
- ・将来的に**廃線**の可能性がある
- ・御嵩町では人口減少と高齢化が進行している
- ・地域への関心やつながりが希薄化している

広見線の魅力や価値を伝える機会の不足

- ・地域の人々が広見線について「知っているようで知らない」状態である
- ・広見線の地域資源としての**価値**が再発見されていない
- ・日常の話題や思い出づくりの場や機会が不足している

体験を通じた関心と記憶の創出

- ・参加型体験イベントで広見線の存在や魅力に気づく**きっかけ**をつくる
- ・灯りや願いを可視化する演出が効果的である
- ・世代を問わず共感と呼びやすく、**記憶に残る体験**になる

1-2. 研究の目的



廃線の可能性もある名鉄広見線について、人口減少・高齢化が進む御嵩町の現状をふまえた上で、その課題と魅力を見つめ直し、地域の人々にとって「**残したい路線**」となるような知名度向上や利用促進に向けた具体的な施策を提案することを目的とする。

1-3. 企画の目的

名鉄広見線をより多くの人に知ってもらい、利用者を増やすとともに、地域にとって必要な大切な財産であることを再認識する場をつくる。
地域の想いをランタンに託し、灯りで広見線の存在を優しく照らす参加型イルミネーションを通じて、以下の3点を目指す。

子どもたち

工作体験を通じて
地域や鉄道に興味を
もつきっかけに



大人たち

駅やまちの思い出を
語り合う
交流の場づくり



地域全体

参加を通じて
“自分ごと化”し、
駅を「記憶の場」と
して再認識する



1-4. 企画・運営スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
椋山女学園大学 (横井)	企画考案			WS①に向けて制作					
					WS②に向けて制作				
名鉄活性化協議会 (太田様)	面談	日程調整・情報共有・資料提供・企画書共有 他の関係者様との連携							
御嵩町まちづくり課 (斎藤様/川野様/伊佐治様)		資料提供				物品の借用			
				第2回WS参加の決定 ◎		◎	実施(10/18)		
名古屋鉄道新可児駅長 (岩谷様)				御嵩駅前展示に関する 許可の取得と打ち合わせ					
みたまちマルシェ (井口様)				願い灯制作WSIに関するご相談 「みたけナイトマルシェ」への出展提案					
行こまい！みたランド (森田様)				出展希望申請・資料と情報の提供 ◎ 第1回WS参加の決定 ◎				実施(9/14)	

企画段階から関係機関と連絡を取り、展示許可や会場調整、運営方法の確認を進めた。御嵩町役場、名鉄広見線活性化協議会、各イベント運営団体と協議を重ね、企画内容や運営体制を調整し、地域と協働する実施体制を構築した。

2 願い灯制作ワークショップ1 みたけナイトマルシェ

2-1. 実施概要

今回の企画「願い灯（ねがいび）」は、名鉄広見線や地域への願い・思い出を灯りとして表現する取り組みである。参加者が和紙等でランタンを制作し、広見線への思いや未来へのメッセージを書き込むことで、幅広い年代の参加を通して地域に寄せられた思いを可視化した。

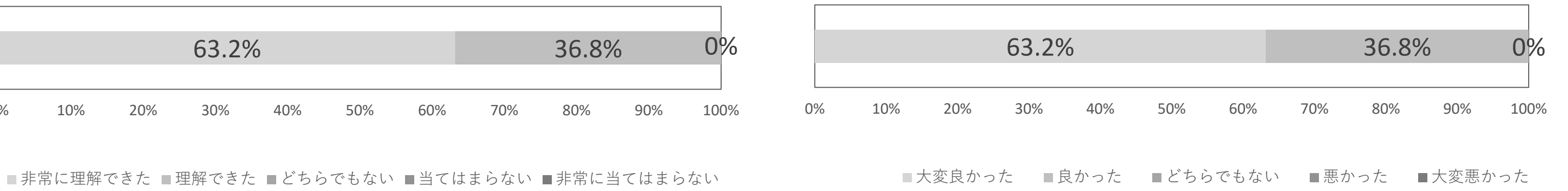
イベント名：願い灯制作ワークショップ
みたけナイトマルシェ
開催日：2025年9月14日(土) 17:00～20:00
会場：御嵩町防災コミュニティセンター
制作個数：35個(当初の目標20個)

2-2. みたけナイトマルシェのチラシとWSの様子

当日は開始直後から参加が続き、終始満席となった。小学生の参加が特に多く、家族で協力して制作を楽しむ姿が見られた。「持ち帰りたい」、「駅に飾られるのが楽しみ」といった声も多くあり、制作数は目標を上回る35個であった。



2-3. アンケート結果



イベント後の名鉄広見線の現状把握度n=19 参加者の満足度n=19

参加者約75人中19人にアンケートを実施した。イベントを通して広見線の現状の把握が「非常にできた」と回答した人が全体の約6割であった。参加者の満足度についても、「大変良かった」との回答が6割以上を占め、本企画が広見線への理解促進と参加体験の満足度向上に一定の効果を持つことが示された。

4 おわりに

2回のイベントを通して、広見線の魅力を「見て」、「作って」、「感じる」体験が地域の中に広がり、“灯り”というシンボルを通して、鉄道が人と人、人と地域をつなぐ存在であることを再確認できた。今後は、本企画で得られた知見を踏まえ、広見線と地域との関係性を育むために、継続的な取り組みや仕組みの構築が必要である。

3 願い灯制作ワークショップ2 よってりゃあ,みたけ

3-1. 実施概要

第2回WSは、御嵩町70周年記念事業「よってりゃあ,みたけ」の一環として、願い灯制作と御嵩駅前での展示・点灯を行った。制作前には紙芝居形式で名鉄広見線の現状と存続の意義を伝え、夕方から点灯されたランタンが駅前を温かな雰囲気包んだ。

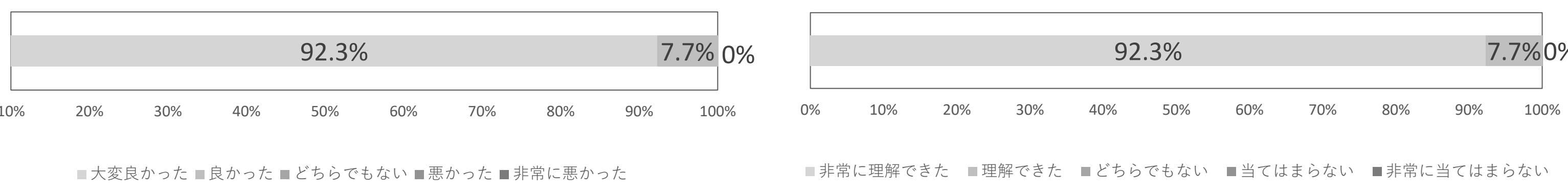
イベント名：灯そう広見線の未来
よってりゃあ,みたけ
開催日：2025年10月18日(日) 13:00～20:00
会場：御嵩さんさん広場周辺
制作個数：21個

3-2. よってりゃあ,みたけのチラシとWSの様子

当日は家族連れや学生、高齢者など幅広い層が参加し、広見線への思いを込めたメッセージが多く寄せられた。展示を見た通行人からは好意的な声があり、前回の参加者が自作したランタンを探しながら展示を楽しむ姿も確認され、イベントへの関心の高さがうかがえた。



3-3. アンケート結果



イベント後の名鉄広見線の現状把握度n=13 参加者の満足度n=13

参加者約40人中13人にアンケートを実施した。その結果、イベントを通して広見線の現状の把握が「非常にできた」と回答した人は全体の約9割であった。参加者の満足度についても、「大変良かった」との回答が9割以上を占め、多くの参加者に高い満足感を与えたことが分かる。